

宮城野諏訪神社、例祭、宮城野湯立獅子舞

諏訪神社は木の茂る丘の上にあり、早川沿いの小さな地域、宮城野を見渡すことができます。その歴史の詳細ははっきりしませんが、神社は、甲斐国（現在の山梨県）を治め、一時箱根の地域を支配下に置いた著名な戦国武将、武田信玄が建立したと言われています。宮城野諏訪神社は、日本で最も古い神道の神社の1つと考えられている長野県の諏訪大社の2万以上ある分社の1つです。ここは、中でも特に戦争の神とされる建御名方神を祀っており、このことから信玄のような侍の間で諏訪神社が人気だった理由がわかります。

宮城野諏訪神社例大祭（年に1度の祭り）は、4月15日に行われ、神職らが地元の神々を称える儀式を行います。しかし、この前の週末にはもっと見どころがあり、この地域が神輿（持ち運び式の神社）と山車が練り歩いて活気づき、これに加えて、屋台は料理や飲み物を販売し、子どもたちにはゲームを用意しています。

7月15日には、神社は伝統的な獅子舞パフォーマンスである湯立獅子舞を開催します。無病息災と五穀豊穡の祈りに関する古代の慣習に起源を持つこの祭りは、少なくとも18世紀から現在の形式で行われてきました。約60年にわたって諏訪神社の夏の風物詩となってきたこの祭りは、湯を沸かす儀式を中心として丸3時間続く熱狂的なショーです。仮面を被った参加者は、7つの異なる舞を披露します。最後の舞では、踊り手が水を沸騰させた巨釜の周りを回り、竹の葉の束でお湯の中に浸し混ぜ、中から湧き上がる湯気を観客に向けます。地元の信仰では、この神聖なお湯の水滴を浴びた人は、その後の1年間を通じて健康でいられるとされています。

大晦日には、伝統的な竹の灯籠が諏訪神社へと続く石段沿いにずらりと並べられます。これは、新年最初のお参りである初詣客を迎えるために行われています。